日本下水文化研究会　会報

発行所　日本下水文化研究会運営委員会
発行責任者　谷口尚弘（運営委員会副代表）
発行年月日　平成７年９月１日
印刷所　(株)愛甲社
編集　小松建司　新澤紀昭
第２号（通巻２号）

バルトン忌開催される

去る８月５日に平成７年度の「バルトン忌」が開催されました。日本下水文化研究会で行うようになって今回で４回目となりました。二十数名の参加者により、講演と墓参、その後にはささやかな懇親会が行われました。

今年の講演会場は青山霊園近くの会議室を借りて、当会代表の稲場紀久雄氏（大阪経済大学教授）より「バルトンと京都」、東京都清掃局の石井明男氏より「インドネシア技術指導の経験」と題して、お話頂きました。

「バルトンと京都」では、稲場氏より今回のバルトン忌のちょうど１００年前（明治２８年）の８月５日に、バルトン先生は京都府庁を訪れ、京都の下水道工事設計調査の打ち合わせをしていたという事実（不思議な因縁）のほか、バルトン先生は台湾の悪疫を撲滅するために、この京都下水道の業務を半ばにして台湾に渡らざるを得なかったこと、その後の業務は門下生に引き継がれたこと等が紹介されました。また、稲場氏のご講演の後半に、奥様の稲場日出子さんより、バルトン先生の実父であるジョンヒル・バートンは、福沢諭吉が翻訳した著書「西洋事情概編」のもととなった「チェンバースの政治経済学」の著者であるという新発見をご披露いただきました。

石井明男氏の「インドネシア技術指導の経験」では、インドネシアの都市ジャカルタを中心に、現地の交通、住宅、環境などの現状を交え、歴史、風俗、習慣を考慮しなければならない廃棄物のマネージメントや技術指導の難しさについて、１００枚以上のスライドを使用して、詳細なご報告をしていただきました。

講演後の墓参は、例年にもれず当日は猛暑の中でしたが、参加者のほぼ全員により、パーマー、芳川顕正、長与専斎、後藤新平の墓参を行い、バルトン先生の墓前ではスコットランド民謡「アメージンググレイス」をＢＧに、参加者ひとりずつ献花をして頂きました。なお、各功労者の墓前では、渡辺健氏より業績、逸話の数々をご紹介いただき、また、小菅村役場より寄贈された「多摩川源流水」を使わせていただきました。

墓参の後には暑気払いを兼ねた懇親会が、講演会場に戻って行われました。ほぼ脱水症状の渇いたのど元に、冷えたビールと小菅村役場寄贈の「多摩川源流水」で作った水割りが、なんと美味しかったことか。また、遠方から来ていただいた会員、新会員の方々を交えた情報交換など、大変楽しいひとときを過ごすことができました。参加者の皆様ご苦労様でございました。次回のバルトン忌には、より大勢の会員皆様のご参加をお待ちしています。

ルポ・運営委員会

こんにちわ、茶坊主が運営委員会をお休みしましたので、代打として私小松が報告します。

例によって、都内某所において夜の6:30分から運営委員会が開催されました。茶坊主も言っていましたが、皆さんタフですねー。本当に昼間本業の仕事をやっているのかしら、と思うほど一人の委員が多方面にわたって会の仕事を分担しているのです。そして、その仕事をキッチリとこなしているのです。

その中の一部を紹介しましょう。まず、直近↗に迫っているバルトン忌～案内の内容検討、印刷配布、当日の会場の手配、講師の選定、依頼、解散後の懇談会場の設定等々。続いて第３回下水文化研究発表会～発表会場の手配、発表者の確保、会場の割り振り、講演集の準備、見学移動の手配、スケジュールの調整、案内書の検討、来賓の選定調整、講演者の選定調整、情報交流親睦会の会場設定等々、そして、第３回下水文化を見る会～案内書の検討、案内人の調整、場所（許可）、ルート、バスの手配等々

ここにあげたことは、ほんの一部です。これを、第２回と３回の運営委員会で決めていかなければならないということは、その間の一人ひとりが、意欲的に動き回っているという事です。そうでなければ、とてもこの運営委員会の回数では決めかねるでしょう。

全国の会員の皆様。私も、この委員会に出席するまでは、お膳立てが全部できたところに顔を出し、参加した後は、ただご苦労さまでしたと言って帰ってしまっていたのです。

陰で、運営をしている人（専属でなく本来の仕事を持っていて活動している）を見ている今、少しでも、協力をして上げなくてはと思っている次第です。

第２回、３回の議題

1) 第３回下水文化研究発表会について
2) ９５年度バルトン忌について
3) 評議委員会の開催について
4) 定例研究会の開催について
5) 「下水文化研究」第７号の発刊について
6) 下水文化叢書第４号の発行について
7) 下水文化を見る会の実施案について
8) 下水道博物館情報交流会について
9) 会報の発行について
10) その他

本の紹介

「江戸・東京の下水道のはなし」という本が技報堂出版から発行されました。東京下水道史探訪会が中心となって書かれています。

内容は３章に分かれており第１章は「江戸時代・明治維新期の下水資料を猟歩する」と題し、様々な古文書、絵図類を駆使して江戸の町の下水道の姿を明らかにしようとしたもので、当研究会の栗田彰氏が執筆しております。第２章は「新聞に見る明治・大正時代の下水道事情」と題して、明治、大正の新聞記事から当時の下水道に関わる処を要約して拾いだしています。第３章は「東京の下水道史を語る」と題し、ＯＢの方から当時の専門分野で活躍されていた方のお話を聞き書きしたものです。

定価は1,854円です

【ひとこと】

平成７年度会費納入の際に、お寄せいただいた会員の声を紹介させていただきます。

○日本下水文化研究会のかぎりないご発展をご祈念申し上げます。
（大阪府・M会員）

○出版活動、研究発表会と数多くのメニューを提供していただいていますが、失速しない様に努力願います。
（高槻市・K会員）

○「川柳・江戸下水」はなかなか良いでき映えにて感心致しました。
（横浜市・K会員）

○ソフト面での活動を願っております。
（東京都・M会員）

会員の皆様から「下水文化叢書」の原稿を募集しております

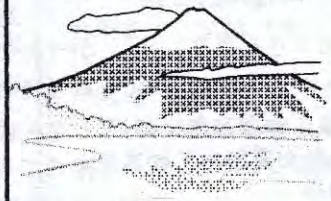
「下水文化叢書第三号」として「川柳・江戸下水」が発行されました。

このように「下水文化叢書」は下水文化に関する会員の貴重な研究成果を、記録、保存し、会員に配布するほか、大学図書館等に贈呈することにより、世に広めることを目的としております。

会員の皆様の中に、講義録や講演原稿、貴重な研究成果、調査資料をお持ちでいながら、出版社の都合で本に出来ないままの原稿がありましたら、いつでも受け付けておりますのでご気軽に運営委員会にご相談下さい。

◇条件◇

・原稿料のお支払いはできません（著書を一〇〇部贈呈します）。
・ワープロで版下を作成していただきます。
・写真・図表は版下に貼り付けてください。但しカラー印刷はいたしません。



関西支部　講演・見学会開く！

関西支部恒例の後援会と見学会が６月24日土曜日開かれた。参加者は２３名。

後援会は、高槻市生涯学習センターの研修室で９時30分開会。最初に稲場支部長が「財団法人・下水道広域防災基金構想」と題し、震災直後の緊急期に備えるための財団法人の設立構想を提案した。阪神大震災では下水道部門の緊急期対応が欠落していた。この原因は、必要な備えがなかったため。今後はこのようなことは許されないという認識に立って、必要な設備・資材の常備体制の確立と平時における防災訓練と環境教育の実施等を目的とした財団法人の基金構想を提案したもの。続いて山田国広氏が「水環境と下水道」と題して、リスク管理問題、環境管理・監査の必要性、今後の下水道と排水の総合管理計画の在り方について約１時間講演し、質疑応答が交わされた。山田氏と言えば、ゴルフ場亡国論で知られた環境論の論客。講演内容は、このため今後の下水道事業の在り方にとって極めて示唆に富んだものだった。

見学会は、高槻市に設立された『生命史研究館』を訪ねた、学芸員から生命の根元ＤＮＡと生命の歴史について興味深い解説を聞き、館内展示を見て回った。参加者一同大変興味を持ち、予定をおよそ３０分オーバー、午後１２時３０分散会となった。

大変意義ある講演・見学会だったと好評で、今後も新しい企画を進めて欲しいとの要望が強かった。

（関西支部発）

ルポ　「一足先に行ってまいりました小平」へ

皆さんご存じですか！。11月５日、「第３回下水文化研究発表会」の開催される町、「小平市」を……。

そんな訳で、茶坊主が一足先に行ってまいりましたので、私の目で見て感じてきましたことをご報告申し上げます。この町に通な方は、次ぎのコーナーにお進み下さい。

東京都小平市は、……と云う歴史等はこの際割愛させていただき、都心からの道程からお話しましょう。

「小平市」へのみちのりと「るね小平」

小平市は、市内を縦横に西武鉄道が走っていて都心からは、新宿・高田馬場から西武新宿線で来るか、ＪＲ－中央線に乗って国分寺から西武国分寺線に乗り換えて来る方法があります。私は今回「高田馬場」駅から西武新宿線を利用してまいりました。

電車に乗って小一時間、行く道すがらの車窓は、ごちゃごちゃした都会の町並みを抜けると、青梅街道に沿って左右に田園風景が点在し始め、街道沿いの宿場町だった町を抜ける。この繰返しを２～３回すると、突如巨大な団地群が開け、その一番始めの停車場が小平駅です。駅前は、きちんと整備されていて、南口側におりていただければ目の前。団地の一角に、総ガラス張りのキラキラ光る建物、ここが今回発表会の会場となります、小平市文化会館「るね小平」です。

私の伺いました日は、丁度市内のハワイアンダンスクラブの発表会が開かれていて、受付けの方が席をはずされていらっしゃる空きに、ちょこっと会場内を拝見させていただきました。ホールも音響もちょっと有名な某会場と比べても、申し分の無い良い会場で、逆に、当日の発表会に記念講演をなされる来賓の方々の声が、子守歌替わりにならないか心配なところです。当日は、くれぐれも粗相の無いよう頑張って発表者の方の発言に耳を傾けてあげて下さい。

東京で始めて作られた「下水道博物館」として、この１０月オープンする小平市下水道記念館「ふれあい下水道館」へ

当日、皆さんは発表会場からチャータしたバスに乗って博物館へお送りし、見学して頂ける計画になっております。しかし、正直なところ時間があれば、かの有名な「玉川兄弟」が作り、江戸時代には多摩地区から都心に水を送った堀割、その後水道が普及し使われなくなり、一時荒れ果てたのですが、昭和５３年地元の皆さんのお力により、東京都環境保全局が中心となって整備し上水の水として東京都流域下水道本部「多摩川上流処理場」で高度処理された水を利用して、現在川沿いの方々の憩いの場となっている「玉川上水」の流れと武蔵野の雑木林が残っている遊歩道をぶらぶらと歩いて頂き、「津田塾大学」のキャンパスが見えて来るともう目と鼻の先にある「ふれあい下水道館」へ……というコースといきたいのですが……。

この「ふれあい下水道館」のある場所は、国分寺市との市境の目と鼻の先に現在建築中で、発表会場からは、ちと遠いぞといった場所にあります。

伺った日は、休日だったために、建築中の内部についてはわかりませんでしたが、外見はと申しますと、こじんまりとした建物で、半円筒型と云うか蒲鉾を板からはずして端を切り落とし、分厚く切ったものを立てたような感じで、建物の表面にはゴツゴツしたタイルが張られていて、入口付近はかたつむりの様に螺旋状をしています。　内部には、どんな展示物やアトラクションがあるのか乞うご期待と言ったところです。（茶坊主）

お知らせ

「会報」に名前を付けて下さい

日本文化研究会では、会員と会の結びつきを深めるために、会員相互の交流の場となることを希って、平成７年度から「会報」を発行する事にしました。

「会報」にふさわしい名前を募ります。ハガキに書いて平成７年10月31日までに下記当てお送り下さい（いくつでも結構です）。

〒108 東京都港区港南1-2-28
東京都下水道局芝浦水処理センター水質管理係
小松建司

森村誠一の「忠臣蔵」より

“下水の打水禁止”

貞享四年（一六八七）亮賢が死に、隆光がその後を継ぐと同時期に庶民に対して発令されたのがこの法令だが、元禄に入り年を追うほどに気違いじみた加速度をもって頻発されたについては隆光の保身がかけられていたのである。その気違い沙汰は元禄五年（一六九二）ボウフラを踏みつぶす恐れありとして下水の打ち水を禁じた発令に極まった。

※「亮賢」は護国寺を開基した僧。

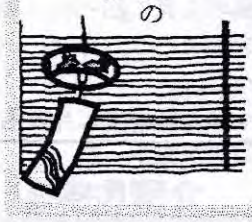
※「隆光」は桂昌院を通じて綱吉に生類憐愍令をつくらせた僧。

※「この法令」は生類憐愍令（しょうるいあわれみのれい）のこと。

※『江戸町触集成』の元禄五年の項には下水打水を禁じた「触れ」は載っていませんが、講談社現代新書『江戸三百年①』の中にはこういう記述があります。

『元禄五年には将軍の意向で、江戸城内では下水を水打ちに使わないことにした。ボウフラを踏みつぶす恐れがあるからだった』

※下水の打ち水を禁止したのは「江戸城内」でのこと



早川　登氏の逝去を悼む

株式会社西原環境衛生研究所取締役相談役（前社長）早川登氏は、去る６月１１日未明、永眠されました。昨年暮れから療養中のところ、肝不全となったものです。享年７０歳でした。ここに故人のご冥福をお祈りすると共に、生前、故人に賜りました皆さん方のご交誼に対し、心から感謝申し上げます。

腰の低い早川さん、謙虚な早川さんなどと、各方面の方々から、格別のご厚情を頂きました。誠実、謙虚な人柄でした。この性格は大学を卒業して西原環境衛生工業所に入社された、昭和２３年頃にも備わっていたようですが、創立者である故西原脩三氏の薫陶を得て、一層磨きがかかったように思います。西原脩三氏も誠実で、腰が低く、義理堅い、人を大事にされた方でした。

早川さんは西原の技術を全面的に背負ってきました。人柄のせいで、各方面の方々のご協力が得られ、西原環境衛生研究所の業績向上に大いに貢献されました。

私が西原に入社したのは昭和３１年ですが、設計、開発などをはじめ、３０数年を早川さんのもとで働き、公私ともに格別なご指導を頂きました。意見も積極的に評価し、取り上げていただき、良い仕事が出来ましたことを心から感謝し、素晴らしい上司に恵まれた幸福を感じております。

西原環境衛生研究所が世に出した商品は、何れも早川さんの息がかかったものです。

学会や団体の活動も熱心で、各種の委員や理事等を精力的にこなされました。水環境学会の功労賞、厚生大臣表彰などを受賞しております。

国内ばかりでなく、海外の方々からも親交を頂いたことに感謝しておられました。皆さんの暖かいまなざしを宝物としてあの世に旅立たれたことと思います。安らかな眠りをお祈りします。

早川さんの略歴

大正１４年５月２日生まれ　　名古屋市出身
昭和２３年　名古屋大学工学部機械科卒
同年　　西原衛生工業所入社
昭和３２年７月　（株）西原衛生研究所設立に伴い同社に移籍
昭和３７年　取締役
平成元年　代表取締役社長
平成２年　取締役相談役
遺族　静子夫人、二人の息子さん夫妻、孫４人

筆者
（株）西原環境衛生研究所取締役
（株）日本環境測定　代表取締役社長
鈴木　富雄

【編集後記】

今回は余りお手伝いが出来ませんでした。次号は頑張りたいと思います。

しかし、今年の夏はお暑うございました。私は例年の通り南湘南海岸で、ピチピチギャルのまぶしいお尻ばっか追いかけて過ごしてしまいました。（茶坊主）

今年のバルトン忌は、暑かった。しかし、雨も降らずに良かった。会員の皆さんもご苦労様でした。

ところで、この会報に全然投稿がないのはなぜ？。皆さんに読まれていないのかな―。（建）

原稿募集

会報では、原稿募集をしております。内容は特に限定はしていませんのでどしどし応募して下さい。

応募方法は、ワープロ専用機でお書きの方は、フロッピーまたは印刷物、手書きの方は、原稿用紙、普通の用紙でも結構です。（解り辛い字はふりがなをお願いします）

宛先

〒108　港区港南１－２－２８
東京都下水道局芝浦水処理センター水質管理係
小松　建司

迄送って下さい。